

鏡かがみに照てらして白髪はくはつも見るみ

張きやう

九きゆう

齡れい

宿昔しゆくせき青雲せいうんの志こころざし

蹉跎さたたり白髪はくはつの年とし

誰たれか知らん明鏡めいきやうの裏うち

形影けいえい自みづから相憐あわれまんとは

【作者】張九齡(六七三年～七四〇年)・盛唐の詩人。字は子壽。(現・広東省)韶州曲江の人。校書郎、左拾遺、中書舍人、出為冀州刺史…を歴任する。

【語釈】*宿昔…昔から。前々から。昔から今までの間。 *蹉跎…つまづく。転じて、時が無駄に流れる、時機を失う。

*白髪年…白髪になった老年。 *明鏡…澄んだ鏡。 *形影…肉体とその影。 *相憐…憐れみあう。

【通釈】鏡で見て、白髪を見つけた。昔は、立身出世の願いを持っていたが、時機を失して、白髪の老年になってしまった。一体誰が分かるるか、澄んだ鏡のなかに。実際の自分が、鏡に映っている自分の姿を見て、自然と憐れみの情が起こってきているのを。